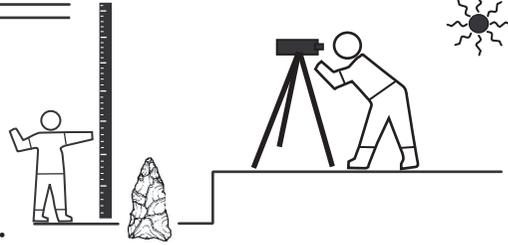


いわかげ

— No. 124 — 2010, 8, 31

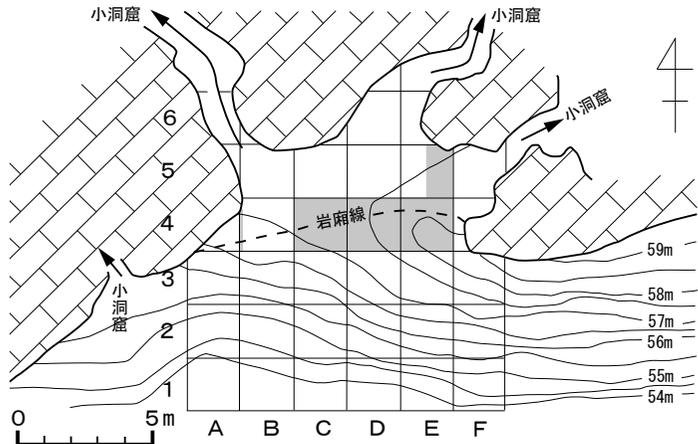
広島大学文学研究科考古学研究室・
帝釈峡遺跡群発掘調査室



2011年度 帝釈峡遺跡群・庄原市佐田峠墳墓群発掘調査 III期(8月25日～31日)

帝釈大風呂洞窟遺跡(第16次)の調査

帝釈大風呂洞窟遺跡は広島県神石郡神石高原町永野字大風呂に所在する洞窟遺跡です。遺跡の下を流れる岩屋谷川から約57m上の急斜面上に位置し、遺跡の直下には帝釈観音堂洞窟遺跡が存在します。



第1図 帝釈大風呂洞窟遺跡調査区配置図

(網掛け部が今年度の調査予定範囲)

8月4日から始まった今年度の発掘調査もIII期に突入

し、帝釈峡遺跡群の記念すべき50年目

の調査にあたった本遺跡の第16次調査も8月31日をもって終了しました。今年度はC・D・E-4区とE-5区の東半部を調査区とし、C・D・E-4区では縄文時代草創期～早期もしくはそれ以前の時代であると考えられる第5層を、E-5区では縄文時代後期と考えられる第3層を調査しました。

以前の西半の調査においてC-4区で縄文時代草創期から早期の土器が出土しており、その土器が発見された高さまでD・E-4区を掘り下げ、草創期から早期の遺物の有無を東半部でも確認することを今年度の目的の一つとしてきました。残念ながら調査期間中に草創期から早期の土器を出土することはできませんでしたが、自然遺物としてマイマイ・キセルガイなどの貝類や動物骨などが出土しました。動物骨に関しては特にC-4区で多く出土し、当時の環境を復元する上で、貴重な資料となります。

また、本遺跡の現地説明会を8月27日に開催いたしました。幸い天候に恵まれ、無事開催することができました。お忙しい中、参加していただき本当

にありがとうございました。現地説明会が地元の文化財に対する理解とその保護の一助となれば幸いです。来年度以降の現地説明会にも是非参加していただければと思います。

今年度の調査で出土した遺物や図面は大学に持ち帰って詳細に研究し、来年度以降の発掘調査に生かしていきたいと思いません。今年度調査した第5層からは人工遺物が出土しませんでした。このことは本遺跡の今年度調査した地点の利用状況を知る上で、検討する必要があります。今回の調査期間内に解明できなかったこと、新たに課題として浮かび上がった問題は、来年度以降、引き続き明らかにしていこうと思しますので、今後とも我々広島大学考古学研究室の応援をよろしくお願いいたします。

(3年 市川伯博)



写真1 帝釈大風呂遺跡発掘調査風景



写真2 現地説明会の様子

コラム1 『現場の空気に触れる』

私は京都大学で動物考古学を勉強しています。研究室で動物骨を扱ってはいますが、実際に出土する遺跡での発掘経験がなかったため、今回帝釈大風呂洞窟遺跡の発掘調査に参加させていただきました。

主に発掘の手法や動物遺存体の出土状況について学ばせていただこうと思ってきたのですが、得たものの中で最も大きかったのは広島大学の学生の皆様の調査に対する意識の高さと積極性を間近で感じる事ができたことだと思います。大学院生のみならず、学部生も主体的に行動し意見をぶつけ合いながら調査を進めていく光景は大変刺激になりました。出土遺物一つの同定に「骨かなあ、いや歯かもしれないなあ」と四苦八苦していた自分はやはりまだまだだな、と改めて実感することができました。

約一か月にわたって居座り、副流煙をまき散らし、ご飯のネットを焦がすなどご迷惑も多々おかけしたかとは思いますが、これに懲りずに今後とも交流を続けていただければと思います。どうぞよろしくお願い致します。

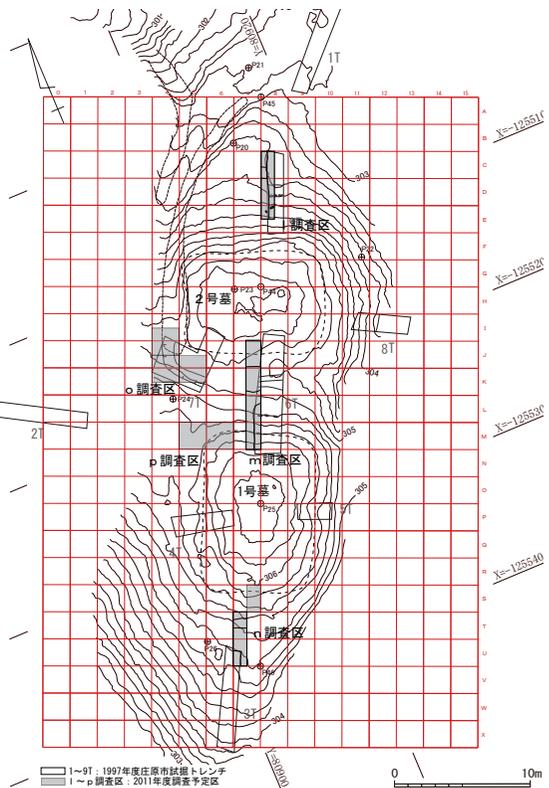
(京都大学大学院 M1 松崎哲也)

佐田峠墳墓群（第5次）の調査

本遺跡群は広島県庄原市宮内町に所在し、西城川左岸の低丘陵上に位置しています。現在、5基の墳墓が確認されており、これらは弥生時代中期末葉から後期初頭の墳墓群となっています。第4次調査までに、3～5号墓の詳細な発掘調査が終了しており、3・4号墓は今から2000年ほど前の四隅突出型墳丘墓であることが分かりました。四隅突出型墳丘墓とは方形の形をした墳丘で、四隅が突出しており、主に広島県北部から山陰にかけて多くみられています。四隅突出型墳丘墓が、なぜこのような形をしているかは様々な説が挙げられていますが、いまだに多くの謎が残されています。3・4号墓の突出部の構造は異なっており、墳墓群の発達過程を把握できる重要な墳墓となっています。5号墓は墓の周りに溝がめぐらされる方形周溝墓で、石はありません。また、5号墓では「塩町式土器」が出土しており、これは弥生時代中期後半から後期初頭にかけて備後北部中心に分布するものです。これらの墳墓の様相は、四隅突出型墳丘墓の出現を探る上で大変重要なものとなっています。

今年度の調査は、本遺跡群内における1・2号墓の時期的変遷を把握することであり、墳丘隅部の形態や1・2号墓の前後関係の把握を目的としています。

1・2号墓はともに、1996年から1997年にかけて庄原市教育委員会により試掘調査が行われています。今期では、庄原市教育委員会の調査で確認されている石列と周溝の再確認を行っています。これらを確認するためには、まず新たな調査区の設定が必要となります。調査区を設定した後、掘削を開始しました。掘削では1・2号墓は丘陵上に位置するため草木が多く根が張り、最も体力のいる作業でした。こうして掘



第2図 佐田峠墳墓群調査区配置図

り下げていきながら、土の色や質の変化を十分に注意し、調査を進めていきます。

今期の調査では、現段階で試掘調査にて確認されている石列の上面が頭を出しています。今後は、1・2号墓の隅部の観察を行い、佐田峠墳墓群の様相、ひいては四隅突出型墳丘墓について紐解いていきたいと思っております。今後の成果にご期待下さい。（3年 関内由衣）



写真3 佐田峠1・2号墓発掘調査風景

コラム2 『帝釈峡で感じたこと』

今年から広島大学で考古学の勉強を始め、実習として帝釈峡を訪れて改めて思ったのは、この地域は良い所だということでした。

私は神石郡の出身です。神石郡といっても帝釈からは少し離れた油木で暮らしているので、今まで帝釈峡を訪れたことはほとんどありませんでした。

私たちが宿泊している宿舎の周りを見渡すとほとんどは山です。緑に囲まれているという言葉がこれほどしっくりくることは滅多にないであろうという場所で、おいしい空気を吸いながら調査に精を出しています。地元の方々は私たちにとってもよくしてくださり、人々の人柄の温かさにも触れ、日々頑張ることができています。

先日、調査の合間に時間を取ることができたので、帝釈峡を少し散歩してみました。天候の関係で断魚溪までしか行くことはできませんでしたが、宿舎からそこまでの間にも帝釈峡の雄大な自然を感じることができました。特に雄橋の巨大さには圧倒されました。

今は町を離れて勉強していますが、いつかは神石郡に戻って地域の発展に多少なりとも貢献していきたいと思っています。（2年 赤木智香）

人物往来

（8月26日）

愛媛大学法文学部人文学科准教授 幸泉満夫先生

参加者名簿（Ⅲ期 8月25日～8月31日）

広島大学文学研究科	教授	古瀬清秀
同上	准教授	竹広文明
同上	准教授	野島 永
同上	助教	谷岡能史
同上	大学院生	脇山佳奈 (D3) 今福拓哉・小川原励・小森由佳利 (M1)
広島大学学部生	大村愛海・市川伯博・関内由衣・中神恵美・森本直人（3回生）・赤木智香・上利碧月・川添敦史・戸川貴大・林 美和・三輪剛史（2回生）	
愛知教育大学	磯村侑加（4回生）	
京都大学大学院	松崎哲也 (M1)	

陣中見舞い (50音順)

安部さん	ジュース・お菓子
伊藤先生	ジュース・コーヒー・お菓子
上田さん	ビール
久保田さん	ピーマン・ゴーヤ
幸泉先生	ビール・お菓子
齋藤さん	バナナ・スイカ
中越先生	ビール
長井さん	お米
明賀さん	ビール
村上先生	お酒・ジュース
横山さん	書籍・キャベツ

地元の皆様には、本年度も物心両面でご支援いただいております。感謝の念が絶えません。最後になりましたが、この場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

編集後記

帝釈峡遺跡群発掘調査室もすっかり秋めいてまいりました。第Ⅰ期・第Ⅱ期に比べ発掘現場も涼しく、皆調査に精を出しております。発掘現場から帰った後も、我々は鈴虫の鳴き声が聞こえる中、調査の内容と格闘しています。特に後輩たちは、初めての発掘であったり、初めて発掘現場を取り仕切ったりと、奮闘しております。そんな姿を見ていると、昔の自分を見ているようで、とても微笑ましく思っております。

佐田峠墳墓群の調査は、まだ始まったばかりですので、来期からの調査にどうぞご期待下さい。
(編集 小森)

広島大学考古学研究室 〒739-8522 東広島市鏡山1-2-3 (Tel:0824-24-6663)

帝釈峡遺跡群発掘調査室 〒729-5554 庄原市東城町帝釈末渡野田原 (Tel:08477-6-0101)

研究室ホームページ URL <http://home.hiroshima-u.ac.jp/kouko>

